

第 1 回 建設産業における女性活躍・定着促進に向けた実行計画検討会
議事要旨

1. 日 時：令和 6 年 8 月 21 日（水）10:00～12:00

2. 場 所：中央合同庁舎第 2 号館地下 1 階 国土交通省第 2 会議室 A・B

3. 議事（概要）

○会議冒頭、平田不動産・建設経済局長より挨拶

○検討会構成員の互選により、建設産業女性定着支援ネットワークの須田幹事長が本検討会の座長に選任

（1）現行計画に掲げた取組目標の達成状況

○国土交通省より資料に基づく説明

（2）各団体におけるこれまでの取組

○国土交通省、日本建設業連合会、全国建設業協会、全国中小建設業協会、建設産業専門団体連合会、全国建設産業団体連合会、住宅生産団体連合会、建設産業女性定着支援ネットワークより資料に基づく説明

（3）今後の検討の方向性について

○国土交通省より資料に基づく説明

（4）意見交換

（日本建設業連合会）

○建設業界を女性から選ばれる業界にするため、働きやすい環境整備を行っていくことは、女性に限らず、若年層などあらゆる方々から選ばれ、働きやすい業界となることにもつながると考える。

○広報については、各業界団体の得意分野を活かし、組み合わせることができるとよい。目的や対象に合わせて、有効な広報の選択肢を提示できるとよい。

○女性専用トイレの現場への設置はいまだ不十分。引き続き取り組む必要。加えて、更衣室の設置も併せて推進していくべき。

（全国建設業協会）

○取組を地方部に広めていくことが重要であり、そのためのわかりやすい切り口、取り組むべき柱が必要。

○技術者と技能者はきちんと分けて整理する必要。

- 快適トイレについて、直轄工事並みの取組が地方部では難しいという実態もある。例えば、男女共同で1つしかないトイレでも、清潔で、きちんと清掃されている状態であればそれでよいといった扱いもあってもよいのではないか。
- 例えば、休暇取得について、男性が取得することで女性も休暇取得しやすくなるといったこともある。各施策の実施に当たっては、必ずしも女性に特化するのではなく、労働者全体にとってよりよい環境整備を目指すことが大事。
- 「活躍」というと活躍することを強られる印象もあり、前回、「活躍」ではなく「定着」という言葉を使ったことは良かった。

（全国中小建設業協会）

- 技術者と技能者の状況は異なり、両者を分けて検討する必要。
- 中小・零細企業では、女性は継続して働けないという固定観念を持つ経営者がいるとその思想に左右されがちだったり、そもそも、経営体力がないと取り組めなかったりという実態がある。前提として必要となる各企業の経営体力をつけさせるような施策が重要。

（建設産業専門団体連合会）

- 「若者が未来予想図を描ける業界」、(若者を)入れたい業界から、(若者が)入りたい業界になる必要。女性でも建設現場で活躍できることを理解してもらう、魅力をPRしていく広報が重要。

（全国建設産業団体連合会）

- 地方の中小建設企業が携わる現場は市町村発注がほとんどであり、現実には、トイレの設置などが費用面で困難。
- 業界内で情報発信するだけでなく、業界の外にアピールする戦略的な広報が必要。

（住宅生産団体連合会）

- 建設業の業務内容がなかなか一般に認識されていない。このための広報戦略は大変重要。高校の進路指導の先生など、教育現場に対する情報発信も必要。
- 大手企業の場合、自社の職業訓練所を持つこともあるが、ものづくりに興味がある人はいらる。興味を持った人が技能を習得できる場も重要。
- 元請・下請、土木・建築、大規模事業・小規模事業と、それぞれで取り組むことができる内容も異なる。しっかり分けて議論する必要。
- 女性の離職理由に関するアンケートを取ったところ、出産等女性特有のライフイベントに起因するものに限らず、長時間労働、休日出勤など、誰にとっても等しく課題となる意見が多くみられた。女性が働きやすい環境整備は全ての人に働きやすい環境整備につながるという認識で進める必要。

- 「建設現場は男性」という紋切型のイメージがどのように・どの世代に形成されているのか検討するなど、どの層をターゲットに広報すべきか、戦略が必要。

（建設産業女性定着支援ネットワーク）

- 出前講座への女性参加者はそれなりに増えつつある印象もあるが、就職先には建設業が選ばれず、また同時に地元に定着しないという課題を感じている。
- 建設業で働く事務系職員は多いが、一言で事務系職員と言っても、技術者・技能者に近い、様々な資格を持った方もいる。こうした方を現場で活躍できるようにする取組もあるとよい。
- 広報を進めるにあたっては、女性に対してなのか、企業経営者に対してなのかなど、ターゲットを明確に意識して、どういった内容とすべきか検討する必要。
- 女性職員の中には、積算業務に強い、設備に強いなど、様々な資格を持った技術者・技能者がいるので、そうした方々のキャリアの蓄積にも着目したい。
- トイレの設置は人間の尊厳ともいうべき不可欠な事項。女性特有の課題を現場の上司、管理職に理解、勉強してもらうことも肝要。

（建設産業女性定着支援ネットワーク・須田座長）

- 本検討会は、女性がいきいきと働ける業界はみんなにとって働きやすいという認識をもって進めたい。
- 被災地の仮設トイレは、未だ和式トイレが多い現状。平時に快適トイレの設置が進めば、非常時にも活用できるという面もあると考える。トイレも、移動式トイレなど、進化した形態も出てきている。
- 坑内労働など、未だに法規制によって女性の職域が限定されているところもあり、この点も引き続き問題提起していきたい。

（５）その他

- 国土交通省より、本日のご意見も踏まえつつ、検討の方向性に沿って、今後の検討を進めたい、とした。

以 上